

28年1月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年 1月1日～ 28年1月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/1月	2月	3月
仕入 動向	国産材製材品	△ 40.0	△ 40.0	△ 30.0
	外材製材品	△ 40.0	△ 30.0	△ 30.0
	構造用集成材	△ 25.0	△ 37.5	△ 25.0
消費 動向	国産材製材品	△ 30.0	△ 50.0	△ 30.0
	外材製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 30.0
	構造用集成材	△ 50.0	△ 62.5	△ 37.5
在庫 動向	国産材製材品	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	外材製材品	0.0	△ 10.0	△ 20.0
	構造用集成材	0.0	△ 12.5	△ 12.5

・プレカット部材の仕入れ及び消費は、国産材、外材及び構造用集成材共に3ヵ月連続して減少。

・プレカット部材の在庫は国産材は3ヵ月連続して減少。外材及び構造用集成材は1月の横ばいが2月、3月は減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	28/1月	2月	3月
受注	△ 20.0	△ 40.0	△ 20.0
加工	△ 20.0	△ 40.0	△ 20.0
受注残	10.0	△ 20.0	△ 20.0

・プレカット工場の受注、加工は3ヵ月連続して減少。受注残は1月の増加が、2月、3月は減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入れ順調。消費低調。在庫は低水準。
- ・1～3月は不需要期に入るため、仕入れは控える。消費は全体的に減。消費が少なくなるため、在庫減少になるよう調整をかけるが難しいかも。
- ・合板や集成柱がタイトになって来た。

(受注動向)

- ・全体的に減少傾向にある。
- ・1～3月は不需要期に入るため受注減。
- ・順調だが、大きな伸びはない。